

■新旧対照表 ※変更部分は1ページ目のみ

○変更前（※前回の分科会で使用したものと同じものになります。）

西宮市都市交通会議

事業名：平成28年度地域内フィード系統

目的 計画 目標 (P)

○事業の目的
地域住民が計画段階から主体的に関わり、専門家・交通事業者・行政等と協働して取り組み、地域にふさわしい、住民目線で身の丈にあった持続可能なコミュニティバスの運行を目指すとともに、コミュニティバスの運行を通じて、魅力的で活力ある地域の形成を目指す。

○計画内容
公共交通不便地域や地形的勾配が急である等の地域特性をもつ生瀬地域において、高齢者等の移動制約者の買物や通院等を目的とした生活移動手段を確保する。また、継続的な運行のため、積極的に利用促進策を実施する。

○定量的な目標
指標を一日あたり輸送人員とし、目標値を以下のとおり設定する。
・1年目(H28年度)：70人以上、2年目(H29年度)：85人以上、3年目(H30年度)：100人以上

具体的取り組み (D)

左記の目標を達成するため、下記のとおり利用促進策を実施した。

- ・地元会議を毎月開催し、運行状況の確認や利用促進活動等の実施方法について協議した。
- ・会報を二ヶ月毎のペースで発行し、全戸配布した。
- ・車内やホームページに日々の利用者数等を掲載し、目標達成のための啓発に努めた。
- ・マスコットキャラクターを募集し、着ぐるみを作製。各種地元イベント等に参加し、利用を促した。
- ・地元の保育園や幼稚園・小学校・中学校へ出向き、乗り方教室の実施や地域で守り・支える大切さを説明。
- ・事務所を開設し、メンバーが常時集まれる環境を整え、活動の拠点とした。
- ・ラジオやケーブルテレビにて、不特定多数にPRした。毎月、宝塚駅前にてPR活動を実施した。
- ・自治会単位で座談会を開催し、運行計画の説明や要望等の把握に努めた。
- ・不動産のチラシに、バス情報も掲載してもらうよう不動産会社へお願いに上がった。

概要図・参考資料

■住民基本台帳人口(H28.9.30現在)

	西宮市	生瀬地域
人口	485,819人	8,772人
世帯数	218,897世帯	3,739世帯
面積	100.18km ²	5.72km ²
高齢化率	22.8%	29.4%

■地域公共交通会議の開催状況(書面協議含む、H27.4~H28.9)

○西宮市
・都市交通会議：1回
・地域公共交通分科会：4回

○宝塚市
・地域公共交通会議：3回

取組みに対する評価 (C)

■目標達成状況(H27.10~H28.9)

指標	目標値	実績値	達成率
一日あたり輸送人員	70人/日	83.7人/日	119.6%

※直近の試験運行における一日あたり輸送人員の実績は66.8人であった。

自己評価から得られた課題、対応 (A)

・「具体的取り組み(D)」のとおり、利用促進策を積極的に実施した結果、1年目の目標を大幅に達成するなど、一定の成果が得られた。

・従って、次年度以降も、目標を達成するため、利用促進活動等を継続的に実施し、さらなる利用者の確保を目指す。

・また、利用状況や利用者の声等を参考にし、利便性と採算性を考慮に入れながら、適当な運行計画となるよう、適宜、見直しを行う。

アピールポイント、特に工夫した点など

・会報の紙面内容について、地域に関する情報も掲載することで、地域への関心を高め、地域活性化につなげようと工夫した。また、このような地域住民に馴染みのある記事を掲載することで、これまでバスに興味のなかった人に対して、気軽にバスに関する情報を触れられるようにした。

・マスコットキャラクターについて、キャラクター案を地域全体に対して募集し、着ぐるみの作製も住民自身で行うことで、愛着がわくよう工夫した。また、この着ぐるみを用いて、地域の各種イベントに参加し、バスの利用を促すとともに、このキャラクターが地域のシンボルとなるよう積極的にPR活動を行った。

・地元協議会メンバーがいつでも集まることができるよう事務所を開設したことで、バスや地域活性化のための対応について、頻繁に意見を交わすことができた。時には、メンバー外の人も参加しており、今後のバスの運営等の新たな担い手となるよう期待される。

○変更後（※赤字の下線部が今回変更した部分になります。）

西宮市都市交通会議

事業名：平成28年度地域内フィード系統

目的 計画 目標 (P)

○事業の目的
生瀬地域にある全九つの自治会等で構成される「ぐるっと生瀬」運行協議会が、計画段階から主体的に関わり、専門家・交通事業者・行政等と協働して事業に取り組み、地域にふさわしい、住民目線で身の丈にあった持続可能なコミュニティバスの運行を目指すとともに、コミュニティバスの運行を通じて、生瀬地域が魅力的で活力ある地域となるよう目指す。

○計画内容
公共交通不便地域で地形的勾配が急である等の地域特性をもつ生瀬地域において、高齢者等の移動制約者の買物や通院等を目的とした生活移動手段を確保する。また、地域住民の多くが利用し、生活サービス施設が集積しているJR/阪急宝塚駅に接続することで、利便性の高い交通とする。

○定量的な目標
指標を一日あたり輸送人員とし、目標値を以下のとおり設定する。
・1年目(H28年度)：70人以上、2年目(H29年度)：85人以上、3年目(H30年度)：100人以上(※採算ライン目安)

具体的取り組み (D)

左記の目標を達成するため、「ぐるっと生瀬」運行協議会が主体となり、活動の展開と利用促進を実施した。

- 地元会議を毎月開催し、運行状況の確認や利用促進活動等の実施方法について協議した。
- 会報を二ヶ月毎のペースで発行し、生瀬地域内に全戸配布した。
- 車内やホームページに日々の利用者数等を掲載し、目標達成のための啓発に努めた。
- マスコットキャラクターを募集し、着ぐるみを作製。各種地元イベント等に参加し、利用を促した。
- 地元の保育園や幼稚園・小学校・中学校へ出向き、乗り方教室の実施や地域で守り・支える大切さを説明。
- 事務所を開設し、メンバーが常時集まれる環境を整え、活動の拠点とした。
- ラジオやCATVにて、不特定多数にPRした。地元企業に呼びかけてPR活動の協力を求めるとともに、毎月、宝塚駅前にてPR活動を実施した。
- 自治会単位で座談会を開催し、運行計画の説明や要望等の把握に努めた。 etc

概要図・参考資料

■住民基本台帳人口(H28.9.30現在)

	西宮市	生瀬地域
人口	485,819人	8,772人
世帯数	218,897世帯	3,739世帯
面積	100.18km ²	5.72km ²
高齢化率	22.8%	29.4%

■地域公共交通会議の開催状況(書面協議含む、H27.4~H28.9)

○西宮市
・都市交通会議：1回
・地域公共交通分科会：4回

○宝塚市
・地域公共交通会議：3回

取組みに対する評価 (C)

運行計画の作成から利用促進の実施に至るまで、「ぐるっと生瀬」運行協議会が中心となり積極的に取り組んだことで、輸送人員は目標を大きく超えており、「ぐるっと生瀬」運行協議会の活動が最大の役割を果たした。また、収支比率は約88%という高い水準となっており、自分たちの交通という認識が芽生えたと同時に、経営感覚を持って取り組むことができています。さらに、住民自らがコミバス運営に携わることで、このバスへの愛着と地域への愛着が相互に高まり、地域を盛り上げる起爆剤としてコミバスが機能しているとの判断できる。

また、地域が積極的に取り組み、地域が盛り上がりつつある貴重な事例として注目され、関係各課との各種調整等が円滑に進みやすい環境となっており、支援の幅が広がり、継続的な予算的支援についての庁内合意が得やすい状況となっている。

目標達成状況(H27.10~H28.9)は以下のとおりである。

指標	目標値	実績値	達成率
一日あたり輸送人員	70人/日	83.7人/日	119.6%

※直近の第2回有料試験運行では、66.8人/日であった。

自己評価から得られた課題、対応 (A)

●「ぐるっと生瀬」運行協議会の取組みが、交通以外の分野(ex.まちづくり)にも広がりを見せていることから、庁内の関係各課とも上手く連携しながら、持続可能な運行に向けた支援を行う。

●定量的な目標については、1年目の目標を大幅に達成できたので、次年度以降も利用促進活動等を継続的に実施し、持続可能な運行に向け、さらなる利用者の確保が図られるよう支援する。また、「ぐるっと生瀬」運行協議会では、利用状況や利用者の声等を参考にし、利便性と採算性を考慮に入れながら見直しを行うとしており、より適切な運行計画となるよう適宜アドバイスなどをする。

アピールポイント、特に工夫した点など

◎バスが安定して運行していることから、自家用車の利用を抑えたり、免許を返納する事例が出てきており、バスの時刻に合わせてお出かけをするなど、ライフスタイルの変化が見られる。また、少しの用事でも、このバスを気軽に利用し出かけるなど外出機会の増加に寄与したり、車内やバス停では利用者同士の会話が弾み、ひとやまちをつなぐ、コミュニティバスとしての役割を果たしている。

◎会報に地域情報も掲載することで、わがまちの関心を高め、地域活性化につなげようと工夫された。また、これまでバスに興味のなかった人も気軽にバスに関する情報に触れられるようになってきている。

◎マスコットキャラクターについて、キャラクター案を地域全体に対して募集、審査を行ない、着ぐるみの作製も住民自身で行うことで、愛着がわくよう工夫された。また、この着ぐるみを用いて、地域の各種イベントに参加し、バスの利用を促すとともに、このキャラクターが地域のシンボルとなるよう積極的にPR活動を行っている。

◎運行協議会の委員一人ひとりが得意なことを活かし、楽しんで利用促進活動等の取組みに関わり、各々の活躍が、組織を継続的に運営していくための強固な組織づくりへ貢献している。

◎事務所を開設したことで、委員が常に集まり、頻繁に意見を交わすことができるようになった。時には、委員以外の地域住民も参加しており、今後、バスの運営等の新たな担い手として期待される。

◎平成28年度地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰、あしたのまち・くらしづくり活動賞(兵庫県：優秀賞、全国：振興奨励賞)、人間サイズのまちづくり賞(知事賞)を受賞し、全国的にも注目されている。